

ジオパークの魅力を発信する「ジオガイド」紹介

ジオガイドは現在63名を
認証しています。



ミサキどっとCome 認定ジオガイド

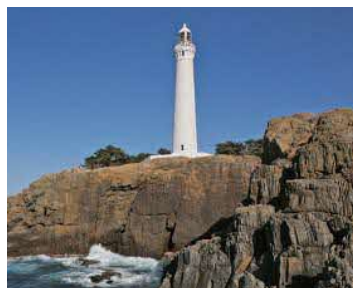
吉田 勝俊さん

「ミサキどっとCome(コム)」をベースに日御碕を盛り上げる

日御碕地区の若手が集まり2014(平成26)年に立ち上げられた「ミサキどっとCome」のメンバーとして活躍する吉田さん。SNSでの情報発信、ポストカード制作・販売、鯉のぼりイベントや子ども縁日、地区の人々にお昼ご飯をふるまう感謝祭など、様々な楽しみづくり、賑わいづくりに尽力されています。「イベントや活動を通して、改めて地元が好きになり地元の人と触れあえる、それがいちばんの魅力」と言います。Come on・Come back・Come outを掲げる「ミサキどっとCome」の活動のひとつとして日御碕神社の観光ガイドもしている吉田さんは、持ち前のトークの上手さとその手腕がかわれ、それがいちばんの魅力」と言います。Come on・Come back・Come outを掲げる「ミサキどっとCome」の活動のひとつとして日御碕神社の観光ガイドもしている吉田さんは、持ち前のトークの上手さとその手腕がかわれ、それがいちばんの魅力」と言います。

「日御碕は観光で訪れる人も多く、間近で様々な自然の魅力に触れることができます。昔から見慣れていた風景も、ジオの視点で見つめ直すと違った魅力となります。草花など目に見えるものを紹介しながら、参加者が質問しやすいように導いて、いろいろなことに興味や関心を持っていただけるきっかけになれば」と日御碕ビジターセンター定時ガイドへの思いを語ります。今後はフォトツアーなども計画中で日御碕の魅力を発信する吉田さんの取り組みはさらに続いています。

編集部より:こちらの記事は、7月9日の日御碕の豪雨による災害前にご寄稿いただいたものです。日御碕の被災に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。



日御碕には年間100万人近い人が訪れます。



取材日にはウミネコが出迎えてくれました。

島根半島・宍道湖中海ジオパークの地質・地形の特徴①〈全3回〉

解説:野村律夫(ジオパーク専門員、理学博士)

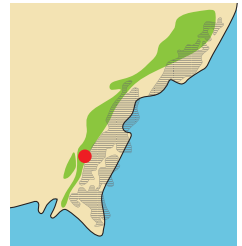
島根半島・宍道湖中海ジオパークは、大きく見ると3つのエリアに分かれています。そのエリアを地質という視点で見るとそれぞれの個性が浮かび上がってきます。レガシーという言葉があります。人間の遺産や伝統が過去から受け継がれるものという意味ですが、同じような意味で、特徴的な自然が資源として受け継がれる場合はヘリテイジと呼びます。私たちのジオパークも大地の個性をもっと明確にするために、ヘリテイジと呼ぶようにしています。3つのヘリテイジがそれぞれの地域の文化や生物生態を生んでいるのです。



①島根半島ジオヘリテイジの成り立ちと特徴

●大陸外縁時代

(約2000万年前～1800万年前)



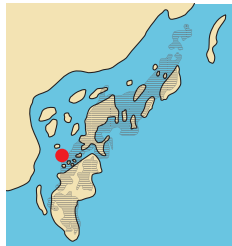
日本列島になる大地は大陸の東端にありました。その縁の部分の窪みにできた淡水の川や湖に砂や泥が堆積しました。やがて、西南日本が大陸から分離しはじめ、淡水の湖も深くなり大きく広がって少しずつ海水が流れ込み汽水の湖へと変わっていきます。タニシや植物の化石、ワニの足跡、シジミの化石が見つっています。

参照ジオサイト

美保関の海食崖(才港・軽尾)・法田の波食棚など

●日本海の形成時代

(約1800万年前～1600万年前)



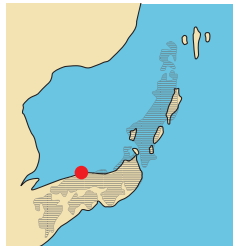
汽水の湖の拡大が続いていくなかで、突然のように太平洋側から海水が流れ込んできます。このとき海の生物が棲む日本海になったのです。このときにできた地層は島根半島に広く見られます。

参照ジオサイト

法田の波食棚・惣津の波食棚・御津海岸の生痕化石

●日本列島の形成の時代

(約1500万年前～1000万年前)



日本列島が今の位置になった頃、フィリピン海プレートの沈み込みによって中国山地が急激に隆起しました。島根半島の部分も大きな変動を受けました。隆起した南部丘陵山地からはまだ深い海の中にあった島根半島側へと土砂や岩石が流入していきます。やがて半島になるところも火山活動を伴って隆起していきます。1100万年前頃になると松江の周辺は内湾のような状態になり、1000万年前には完全に陸化しました。

参照ジオサイト

小伊津海岸の砂泥互層・須々海の洗濯岩・桂島・多古の石柱やセツ穴・西浜佐蛇の千本矢など



まさしく
国引き!

編集後記

ここ数年、新型コロナウイルス感染症による行動制限で十分な活動ができませんでしたが、昨年5類感染症に移行したことから、今年度は地域外からの誘客をめざすジオツアーや、地域住民向けの自然体験イベントに力を入れることにしており、これらの活動を通じてより多くの皆様に当ジオパークの魅力を発信していきます。

発行者: 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

【松江市役所 文化振興課 ジオパーク推進室】

〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

TEL: 0852-55-5399

E-mail: kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

【出雲市役所 政策企画課 プロジェクト推進室】

〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地

TEL: 0853-21-6079

E-mail: project@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク 日本ジオパークネットワーク



島根半島・宍道湖中海

ジオパーク通信

出雲国風土記の
自然と歴史に出会う大地

2024.8
Vol.8

- 協議会会員の紹介 環境省松江管理官事務所/ジオサイト紹介・小田海岸 ……1
- ジオパーク推進協議会の活動 ……2
- 協議会新会員の紹介 中海漁業協同組合/四国西予ジオパーク紹介 ……3
- ジオガイド紹介/島根半島・宍道湖中海ジオパークの地質・地形の特徴① ……4

ジオパーク推進協議会会員の紹介 環境省松江管理官事務所



国立公園管理官
澤野 崇さん



島根半島・宍道湖中海ジオパークの一部は、大山隠岐国立公園に指定されています。

国立公園の景観、生態系を共に守っていくために

大山隠岐国立公園の島根半島地域と三瓶山地域を管理する「環境省松江管理官事務所」。景観の維持・管理、動植物の希少種保護・保全、鳥獣保護区の管理、県や市町村との情報共有、国立公園内での工作物設置や樹木の伐採などの申請受け付けの仕事を行っています。今年四月に前任地山形県から着任された澤野さんは「これまで山の仕事が多かったのですが、こちらに来て海の美しさに魅了されています。島根半島から日本海へ流れ込む川が少ないためか、海の水質が違いますね、透明度もすごい。屋根瓦の朱赤色と海の青とが調和する北浦海岸の景観も素晴らしい」と当地の印象を語ります。

ジオパークと国立公園管理のつながりについては「この地域をどうし

ていくかについての共通のビジョンを持ちたい。何をPRしていくのか、何が魅力なのか、課題は何かといったものを地域のみなさんと共有し、同じ方向を向いて仕事ができれば」とし、「日本は地域性国立公園といって国が全てを管理するのではなく、公園内に民有地や公有地も含まれていますので、関わるみんなで管理していくことが重要。どういう形で国立公園の景観や生態系を維持・管理していくのか。観光振興や生活環境整備も含め、地域との関わりを大切にしながら職務に当たっていきたい」と言います。

澤野さんは大山隠岐国立公園という名称に島根半島・宍道湖中海という名がないことを残念がります。「全国的な知名度は低いかもしれませんが、ここにある自然・地形はすばらしい。その魅力を多くの人に気付いていただけるよう取り組んでいきます」と抱負を語っていただきました。

化石を持ち帰ったり、
海岸の石を割ったりしないように
しよう。



ジオサイト見どころ紹介 シリーズ8 小田海岸の貝化石



小田海岸

小田海岸で採取された貝化石のひとつ。
二枚貝の殻などが数多く密集しています。
(島根大学蔵)



小田川河口に位置する小田海岸は、灰色・うす紫・ピンク・白・黒など実に様々な色の円礫でその大部分が覆われています。小田川の流域には1600～1400万年前の久利層と大森層が分布しています。久利層は主に流紋岩溶岩や凝灰岩、大森層は安山岩・デイサイト溶岩とそれらの円礫を含む礫岩・砂岩からなるので、これらの礫が小田川によって海岸に運ばれ、波によって打ち上がったと考えられます。また海食崖や沖合の海中にも地層が見られるので、これらが浸食され、海中の礫は流れや波によって打ち上がったと考えられます。他にも田儀川など周辺の河川から海に運ばれた礫が流れによってここまで運搬された可能性もあります。礫の中には1300万年前の布志名層の砂岩礫もあり、保存状態の良い貝化石が多く含まれています。これらの貝化石群集は「布志名動物群」と呼ばれ、やや冷たい温帯域の浅い海に生息していた軟体動物群として全国に知られています。

貝化石をよく見ると、二枚貝の片方の殻や破片が多いこと、非常に密集していることがわかります。これは強い海の流れや波により本来の棲息地から運搬され集積したと推察され、異地性群集といえます。このような化石を含んだ砂岩の礫は非常に硬く、石灰分を多く含み、石灰質ノジュールといえます。また小田海岸ではアシカやクジラの骨化石、サメの歯の化石も見つかっています。

小田海岸の化石を研究する島根大学の入月教授は「近いうちに学生とともに小田海岸の調査を始めます。礫や化石を細かく分析することで新しい知見につなげたい。期待しています。」と言います。

※小田海岸は貴重な地質遺産であるジオサイトに指定しています。将来にわたり環境を保全していくため、むやみに化石を持ち帰ったり、石を割るなどの行為は止めましょう。

ジオパーク推進協議会の活動

1 今年度の活動

ジオパークの日イベント つくって楽しいジオパーク!

日本ジオパークネットワーク(JGN)は、2009(平成21)年8月22日、日本で初めて世界ジオパークが認定されたことを記念して、毎年8月22日を「ジオパークの日」にしています。島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、ジオパークの日を記念したイベントを毎年開催しており、今年は貝殻を使ったアクセサリーづくり体験やジオパーク和菓子づくり体験、レトルトしじみパックの一日限定35個の無料配布などを通じて、ジオパークを普及するとともに、私たちが暮らす地域の大地の成り立ちなどについて関心を高めていきたいと考えています。夏休み最後の思い出づくりにお気軽にお出掛けください。

- 日時:8月24日(土)と8月25日(日)それぞれ10:00~16:00
- 会場:イオン松江ショッピングセンター 1F 吹き抜け広場

ジオパークの活動にぜひ参加してください!



国引きフォトコンテスト



2020島根半島四十二浦フォトコンテスト最優秀賞作品
千酌海岸(松江市美保関町)

国引きフォトコンテストは、地域の美しい風景や自然、歴史・文化などの写真を通して、島根半島・宍道湖中海ジオパークの魅力を広く知ってもらうために開催します。

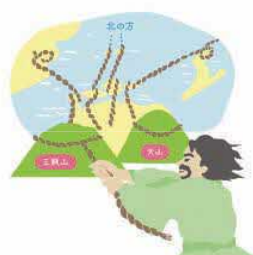
【大地部門】、【生き物部門】、【歴史と文化部門】の3部門で募集します。島根半島・宍道湖中海ジオパークのInstagramアカウント「k_nature_geo」をフォローし、ハッシュタグ「#島根半島宍道湖中海ジオパーク」と「#国引きフォトコン」の二つをつけて投稿していただくか、eメールに作品を添付し、「kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp」宛にご応募ください。

プロの写真家による審査のほか、現役高校生が選ぶ賞もあります。入賞した方には、ジオパークの魅力が詰まった賞品をプレゼントしますので、みなさまふるってご応募ください!

●募集期間:2024(令和6)年8月1日(木)~2025(令和7)年1月31日(金)

2 2023(令和5)年度活動のご報告

島根半島・宍道湖中海ジオパークブランディング戦略の策定



「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の認知度向上や目的・活動意義の浸透といったブランド価値を定着させ、魅力・特徴を分かりやすく伝えるための戦略を策定しました。当地域の最たる特徴が大地の成り立ちと国引き神話の関係であることから、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」ブランドに持ってほしいイメージを「国引き神話と大地の成り立ちがつながる神秘のエリア」とし、提供したい価値観を「地球遺産と歴史・文化が織りなす神秘の世界でかけがえのない感動体験ができる」とすることなどを定めています。各種イベントやツアー、ホームページ、SNSなど、あらゆる場面でブランド認知を広めるための活動に取り組んでいきます。

これらの計画に沿って、さちに活動を推進していきます!



島根半島・宍道湖中海ジオパーク保全管理計画の策定

島根半島・宍道湖中海ジオパークにある地域資源を保全管理するための方針や具体的な方策を定める計画を策定しました。具体的な保全活動として、ジオパーク推進協議会による貴重な地質遺産のモニタリング(定期的な観察)の実施や保全についての周知・啓発、地域住民の皆様による自主的な保全活動などを盛り込んでいます。また、保全活動についてはPDCAサイクルにより点検・評価を実施していきます。

上記4点の内容について、くわしくは「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」ホームページをご覧ください→



ジオパーク推進協議会新会員の紹介 中海漁業協同組合

新しい会員さんです。よろしくお願ひします!!



中海の豊かな環境を取り戻し、後世に継承するために尽力

中海は陸域から流れ込む豊かな栄養と海水が混じりあう高塩分汽水湖(塩分濃度が海水の約1/2)で、かつては赤貝(サルボウガイ)やハゼ、スズキ、メバル、ソイ、ウナギ、アオテガニ、マガキ、モロゲエビ、オダエビなど多様な生態系を育んでいました。オゴノリなど海藻も沢山生えていました。

中海の赤貝(サルボウガイ)は昭和30年頃の最盛期に年間1,600トンを出荷するなど漁業も盛んですが、1968(昭和43)年には、水質悪化や開始された中海干拓・淡水化工事によって、出荷は途絶えてしまいました。

2002(平成14)年に淡水化事業が中止となり、改めて藻場を調査したところ絶滅したとされていたサルボウガイの母貝が八束町周辺でみつかりました。これを復活させようと養殖の取り組みがはじまり、2013(平成25)年には1.5トンの出荷ができました。なんと38年ぶりの出荷です。

組合長の外谷さんはこうした歴史をふりかえりながら「中海の湖面はきれいに見えますが、湖底は貧酸素水域が拡大し、ヘドロがすすんでいます。①中海は、塩分水と水がまじりあうことで貧酸素になりやすい。②干拓淡水化

事業で海底が壊されたままになっている。③温暖化・異常気象による海水温の上昇など様々な影響が続いており、トリブルで魚介類にとっては良好な環境ではありません。今後さらに行政や住民の皆様の協力をいただきながら調査研究を進めて、魚介類が棲みやすい環境に戻していくことをめざしています。赤貝養殖は2019(令和元)年の8トンを最高に、右肩あがりとはいかず、一進一退で2022(令和4)年2トン、2023(令和5)年は6.8トンでした。儲かる漁業とはいきませんが、10トンぐらいの安定した漁獲が出来るように取り組んでいきたい」と語っていただきました。



中海漁業協同組合 代表理事組合長

外谷 久人さん



中海から見る「ダイヤモンド大山」。船上ならではのとても美しい光景です。(写真提供:外谷 久人様)



赤貝の養殖風景。重さ30kgもあるカゴを扱う重労働です。(写真提供:外谷 久人様)

四国西予ジオパーク紹介

四国山地と宇和海が育んだ海・里・山 4億年の物語

四国西南部に位置する愛媛県西予市全域をエリアとする四国西予ジオパークは、海拔0mから標高1,400mの標高差の中に、リアス海岸、盆地、河成段丘、カルスト地形などの多様な地形が存在します。また地形ごとの特徴に根ざした生態系や人々の暮らしを垣間見ることができます。例えばリアス海岸の入江では大きな波風が立たないことが養殖業に適しており、急傾斜の斜面と降り注ぐ日光を活かした柑橘栽培が盛んです。特に文化サイト「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」では、江戸時代から積み上げられた石垣が現在も大切に利用されていて、国の重要文化的景観にも選定されています。一方、四国カルスト・源氏ヶ駄場は水はけの良い冷涼な環境であり、酪農や大根の栽培が盛んです。

加えて四国西予ジオパークの最大の特徴は、日本最古級の岩石である黒瀬川構造帯が分布していることです。黒瀬川構造帯は約4億年前に赤道周辺にあった大陸の一部であると考えられています。当地域は黒瀬川構造帯の特徴を定める基準となった「模式地」が存在します。模式地の一つである地質サイト「三滝溪谷」は、秋になると紅葉の名所となり散策するのにピッタリでしょう。

西予の人たち普段の暮らしと大地の関わりが実感でき、日本列島形成のストーリーに思いを馳せることのできる四国西予ジオパーク、ぜひ現地へお越しください!

一度は行きたい、日本各地のジオパークを紹介します。四国西予ジオパークも面白そうだ!



宇和海狩浜の段畑と農漁村景観



源氏ヶ駄場



三滝溪谷